

第4次総合計画基本構想修正意見

項目	修正前	委員会修正案	修正理由
P1	<p>(2) 総合計画によるまちづくりのあゆみ ～修正なし～ 〈三田市総合計画の期間(昭和56年度～平成2年度)〉 ～修正なし～ 〈三田市新総合計画の期間(平成3年度～平成13年度)〉 その後、ニュータウンなどへの急激な人口増加に伴う行政需要にあわせて、学校施設、市民センター、市民病院、総合福祉保健センター、クリーンセンター、消防庁舎などの整備を行ってきました。また、関西学院大学神戸三田キャンパス、県立人と自然の博物館など高等教育機関の誘致・開設を図るとともに、都市の核となる地域(三田駅前、シビックゾーン、センチュリーパーク)の整備に着手するなど、都市機能の形成に努めてきました。 〈三田市第3次総合計画の期間(平成14年度～)〉 第3次総合計画では、・・・消防西分署・東分署の整備などを行ってきました。また、市民活動の拠点であるまちづくり協働センターの整備に加えて、市民活動支援基本指針、市民意見(パブリックコメント)の公募手続きの制度化、附属機関等委員の市民公募基準の制定など、市民と行政との協働の仕組みを整えてきたほか、全ての人が目指す三田市のまちづくりの指針となる憲章を制定し、協働のまちづくりに取り組んできました。</p>	<p>(2) 総合計画によるまちづくりのあゆみ ～修正なし～ 〈三田市総合計画の期間(昭和56年度～平成2年度)〉 ～修正なし～ 〈三田市新総合計画の期間(平成3年度～平成13年度)〉 その後、ニュータウンなどへの急激な人口増加に伴う行政需要にあわせて、自然環境の保護に配慮しながら、学校施設、市民センター、市民病院、総合福祉保健センター、クリーンセンター、消防庁舎などの整備を行ってきました。また、関西学院大学神戸三田キャンパス、県立人と自然の博物館など高等教育機関の誘致・開設を図るとともに、都市の核となる地域(三田駅前、シビックゾーン、センチュリーパーク)の整備に着手するなど、都市機能の形成に努めてきました。 〈三田市第3次総合計画の期間(平成14年度～)〉 第3次総合計画では、・・・消防西分署・東分署の整備などを行ってきました。また、市民活動の拠点であるまちづくり協働センターを整備してNPOなどのテーマ型活動の活発化を図ることに加えて、市民活動支援基本指針、市民意見(パブリックコメント)の公募手続きの制度化、附属機関等委員の市民公募基準の制定など、市民と行政との協働の仕組みを整えてきたほか、全ての人が目指す三田市のまちづくりの指針となる憲章を制定し、協働のまちづくりに取り組んできました。</p>	<p>P2の「成果と課題」について、成果については全体的に過剰評価になっていると思われ、市民の方の感覚からかけ離れてしまっていることが懸念される。そのため、ここの表記についてはすべて削除し、記載内容はP1の中に盛り込んでいくべき。 (1点目の項目は1次総計の記述でカバーできるので特に盛り込まない。 3点目の項目については、三田駅周辺に関する記述を3次総計の表現の中に盛り込む。 4点目の項目については、3次総計の中のまちづくり協働センターに関する記述のあたりにテーマ型の活動というような意味合いでうまく盛り込む。)また、三田市の第一の魅力ともいえる「豊かな自然」を守り育ててきたという表現も盛り込むべき。これについては平成10年に市内全域を市街化調整区域としたことに自然を守るという意味合いがあったことから、2次総計の項目の中にそういった表現を盛り込むべき。</p>

項目	修正前	委員会修正案	修正理由
P 2	<p>・三田市には都市基盤が充実しています。 ⇒広域・市内の交通ネットワークが高度に構築されており、こうした利点をまちづくりにおいて最大限に活用しなければなりません。</p> <p>⇒比較的短期間にニュータウンなどの都市基盤整備を行ったため、これらを有効に活用するためには維持・更新を計画的に行っていくとともに、まちの魅力を維持するための継続した取り組みを行う必要があります。</p> <p>・市内には関西学院大学神戸三田キャンパス、県立人と自然の博物館、湊川短期大学があり、高等教育・研究機関が充実しています。 ⇒これらの教育・研究機関と連携・協力しながらまちづくりを進めていく必要があります。</p> <p>・本市の玄関口である三田駅は、市内のみならず近隣都市の交通拠点でもあることから、ポテンシャルが高く、近年では市街地再開発事業の施行等により商業拠点としての魅力も更に高まっています。 ⇒本格的な高齢社会を迎えるにあたって、三田駅周辺では都市基盤の集積をめざした中心都市核にふさわしい取り組みが必要です。</p> <p>・NPOなどのテーマ型活動が活発化してきています。 ⇒これらのテーマ型活動と既存の地域活動や市行政等との効果的な連携・協力が必要です。</p>		

項目	修正前	委員会修正案	修正理由
P 8			<ul style="list-style-type: none"> ・ P 8 の各年度末人口推計の折れ線グラフの表記については、現状の表現では 12 万人という目標の印象が薄れてしまっているため、H23 年の実績部分までを実線、それ以降の人口推計を破線で表記し、それとは別に 12 万人の人口目標のところまでをもう 1 本の線で結ぶ、という表記に改めるべき。 ・ 前回までの総合計画では 5 年ごとの地区別の人口推計が掲載されていたので、今回の総合計画についても同じグラフを掲載すべき。
P 9	<p>(4) 産業構造</p> <p>三田市の田園環境（農業振興地域）は市域面積の20%を超え、阪神地域でも最も農業が活発な地域のひとつであり、質の高い多様な農産物が生産されています。また、農業は、自然環境の保全、安全な食の供給、交流などに大きな役割を果たしています。</p> <p>商業については、市内外の大規模店舗の出店等により、既存の商店街などが衰退し、商店数は減少傾向にあり、寡占化が進んでいます。</p> <p>また、市内には、製造業を中心とした大規模工業団地が存在し、現在も、第二テクノパークの開発が進むなど、生産活動のみならず働く場所としての魅力も高く、地域経済の重要な拠点のひとつになっています。</p> <p>事業所数は、商業（卸売・小売）が最も多く、約 25%を占めますが、従業者数は、製造業が最も多く約 23%を占めます。地域別では、テクノパーク及び三輪地区で従業者数の約 8 割、出荷額の約 9 割を占めています。</p>	<p>(4) 産業構造</p> <p>三田市の農地面積は市域面積の10%を超え、阪神地域でも最も農業が活発な地域のひとつであり、質の高い多様な農産物が生産されています。また、農業は、自然環境の保全、安全な食の供給、交流などに大きな役割を果たしています。</p> <p>商業については、市内外の大規模店舗の出店等により、既存の商店街などが衰退し、商店数は減少傾向にあり、寡占化が進んでいます。</p> <p>また、市内には、製造業を中心とした大規模工業団地が存在し、現在も、第二テクノパークの開発が進むなど、生産活動のみならず働く場所としての魅力も高く、地域経済の重要な拠点のひとつになっています。</p> <p>事業所数は、商業（卸売・小売）が最も多く、約 25%を占めますが、従業者数は、製造業が最も多く約 23%を占めます。地域別では、テクノパーク及び三輪地区で従業者数の約 8 割、出荷額の約 9 割を占めています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 9 に「三田市の田園環境(農業振興地域)は市域面積の 20%を超え」とあるが、この項目は「(4) 産業構造」である。そのため、農業を産業として捉えた表現であるならばここは農家住宅の面積を含めた農業振興地域全体の面積を表記するのではなく、単に農地面積だけを表記すべき。 ・ P 9 の成果と課題の四角囲みの中の「基幹産業」という表現について、就業者人口などからして「基幹」とまでは言えないのではないか。第 3 次総合計画のときには「魅力ある農業の振興」という表現を使っているので、今回もその表現を用いるべき。 ・ P 9 及び P 10 で用いられているグラフには、単位を明確に表記すべき。

項目	修正前	委員会修正案	修正理由
	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>農業は、従事者の高齢化や後継者不足等が課題となっています。</u> <u>⇒三田市の基幹産業としてふさわしい取り組みが必要です。</u> ・ 高齢化の進展による生活圏の縮小等に対応できる自立した商業基盤の確立が求められます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>農業は、従事者の高齢化や後継者不足等が課題となっており、魅力ある農業の振興に取り組む必要があります。</u> ・ 高齢化の進展による生活圏の縮小等に対応できる自立した商業基盤の確立が求められます。 	
P 17	<p>3. 新たな社会潮流</p> <p>(1) 安全・安心がより重視される時代 ～修正なし～</p> <p>(2) 持続可能な循環型社会への対応 ～修正なし～</p> <p>(3) ライフスタイルや価値観の多様化 ～修正なし～</p> <p>(4) 多様性を認め尊重する社会 ～修正なし～</p> <p>(5) 生活圏の変化への対応 公共交通機関の整備、広域道路網の整備等による車社会化により、人々の生活圏が格段に拡大し、都市の境界を越えた都市機能の役割分担も可能となる一方で、地方都市においては既存の商業の衰退等を招いています。今後は、高齢化の進展により車社会からの脱却も進むと考えられ、他都市の機能へ過度に依存することは、将来において人々の日常生活にも支障が生じかねません。高齢者や障害者などの移動制約者へ配慮し、誰もが住みなれた地域で生活できるよう、生活圏の変化に対応した都市機能の維持及びコンパクトシティ化などを図る必要があります。</p>	<p>3. 社会潮流</p> <p><u>今後の日本における人口は、少子高齢化の益々の進行により減少傾向が続くと見込まれます。加えて以下のような社会潮流に対応していくことが求められます。</u></p> <p>(1) 安全・安心がより重視される時代 ～修正なし～</p> <p>(2) 持続可能な循環型社会への対応 ～修正なし～</p> <p>(3) ライフスタイルや価値観の多様化 ～修正なし～</p> <p>(4) 多様性を認め尊重する社会 ～修正なし～</p> <p>(5) 生活圏の変化への対応 公共交通機関の整備、広域道路網の整備等による車社会化により、人々の生活圏が格段に拡大し、都市の境界を越えた都市機能の役割分担も可能となる一方で、地方都市においては既存の商業の衰退等を招いています。今後は、高齢化の進展により車社会からの脱却も進むと考えられ、他都市の機能へ過度に依存することは、将来において人々の日常生活にも支障が生じかねません。高齢者や障害者などの移動制約者へ配慮し、誰もが住みなれた地域で生活できるよう、生活圏の変化に対応したまちづくりを図る必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の増加を目指すことを総合計画の中に明記しているのであれば、日本の人口の減少傾向は三田市にとっても影響が大きいと、そのことについての記述を盛り込むべき。 ・ P17の「3. 新たな社会潮流」について、第3次総合計画と比較すると(1)から(4)までについては前回とほぼ同じであり、方向性はあまり変わっていない。そのため、「新たな」というのはおかしく、これは削除すべき。 ・ P17の(5)生活圏の変化への対応について、「コンパクトシティ」とは基本的に「生活しやすいように郊外でなく都市部に集まれ」という考え方であると思われ、これを阪神間に適用して考えると三田は郊外なので除外されかねない。そのため、「コンパクトシティ」という文言は削除すべき。

項目	修正前	委員会修正案	修正理由
P 18 ～ P 19	<p>2. まちの将来像（都市像） ひと・まち・自然が輝く三田 私たちが暮らす三田市は、これまでのまちづくりの成果として、次のような大切な財産を有しています。</p> <p>【ひと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域をつくるのはそこに住み、働き、学ぶ人たちの活動であり、結びつきです。三田市には豊富な知識や経験を有する人々が大勢います。市民一人ひとりがまちを思い、これらの知識や経験をまちづくりに活かしながら人々と交流し、ともに考え、ともに行動することで、これまで以上に魅力あふれるまちや地域が実現できます。 <p>【まち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三田市にはこれまでのまちづくりにより、都市機能が集積されており、近隣都市にとっても都市機能の中核を担っているものが多くあります。これらを効果的に維持・充実・活用することで、まちはさらににぎわうとともに、市の内外に対して三田市の魅力を発信し、多くの人々が交流する拠点にもなります。 <p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三田市は大都市近郊にありながら豊かな自然に恵まれています。水や緑は、私たちの生活に潤いをもたらすばかりではなく、生物多様性の維持にとっても不可欠であり、豊かな農作物の生産にも欠かせません。このように良好な自然は、私たちがよりよく生きるために欠かすことのできない財産です。この豊かな自然をまもり、その恵みを市民が享受し、市内外の人々と交流することで三田市の魅力はさらに高まります。 	<p>2. まちの将来像（都市像） ひと・まち・自然が輝く三田 私たちが暮らす三田市は、これまでのまちづくりの成果として、次のような大切な財産を有しています。</p> <p>【ひと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域をつくるのはそこに住み、働き、学ぶ人たちの活動であり、結びつきです。市民一人ひとりがまちを思い、これらの知識や経験をまちづくりに活かしながら人々と交流し、支えあい、ともに考え、ともに行動することで、これまで以上に魅力あふれるまちや地域が実現できます。 <p>【まち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三田市にはこれまでのまちづくりにより、都市機能が集積されており、近隣都市にとっても都市機能の中核を担っているものが多くあります。また、農村地域や既存市街地には貴重な文化や伝統芸能などが育まれてきています。これらを効果的に維持・充実・活用することで、まちはさらににぎわうとともに、市の内外に対して三田市の魅力を発信し、多くの人々が交流する拠点にもなります。 <p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三田市は大都市近郊にありながら豊かな自然に恵まれています。水や緑は、私たちの生活に潤いをもたらすばかりではなく、生物多様性の維持にとっても不可欠であり、豊かな農作物の生産にも欠かせません。このように良好な自然は、私たちがよりよく生きるために欠かすことのできない財産です。この豊かな自然をまもり、その恵みを市民が享受し、市内外の人々と交流することで三田市の魅力はさらに高まります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 18 の【ひと】の「三田市には豊富な知識や経験を有する人々が大勢います。」という表現は、知識や経験を持っていないものの立場がなくなってしまうかねないので、削除すべき。 ・ P 18 の【ひと】の「人々と交流し、ともに考え、ともに行動すること」という表現だけでは福祉の視点が抜けていると考えられるので、「支えあい」という文言を追加すべき。 ・ 三田まちづくり憲章にも「伝統を尊重するとともに、新しい市民文化のまちをつくります」とあることから、P 18 の「2. まちの将来像（都市像）」の中にも歴史や伝統に関する表現を盛り込むべき。 ・ P 19 の「私たちは、先人達が守り、～」で始まる段落については、「2. まちの将来像（都市像）」のまとめの段落であるが、その直前の【自然】の段落から続いている表現のように見えてしまっていて紛らわしいので、太字にするなど表記方法を工夫すべき。 ・ P 19 の一番最後の4行については、P 23 にも「人と人がつながり、支えあいまち」「お互いが人権を尊重しあいまちをつくりましょう（人権尊重のまちづくり）」という同じような表現があり重複するので、削除すべき。

項目	修正前	委員会修正案	修正理由
	<p>私たちは、先人達が守り、育ててくれたこれらの「ひと・まち・自然」という貴重な財産の魅力をさらに高め、輝かせることによって、<u>新たな社会潮流によって</u>生じる本市を取り巻く環境の変化に適切に対応するとともに、本市に存在するあらゆる課題を確実に克服し、次の世代に誇るべきまちとして、引き継いでいく必要があります。そこで、「ひと・まち・自然が輝く三田」を計画期間内のまちの将来像(都市像)とします。</p> <p><u>そして、市民一人一人の人権を尊重しあい、それぞれの違いを認め合い、共に生きることを基本として、このまちの将来像(都市像)を目指すため、情報共有を図りながら、広く市民がまちづくりに参加するとともに、市民と市が協働してまちづくりに取り組むことにより、活力のある、住みたい住み続けたいまちをつくりまします。</u></p>	<p><u>私たちは、先人達が守り、育ててくれたこれらの「ひと・まち・自然」という貴重な財産の魅力をさらに高め、輝かせることによって、社会潮流に伴い生じる本市を取り巻く環境の変化に適切に対応するとともに、本市に存在するあらゆる課題を確実に克服し、次の世代に誇るべきまちとして、引き継いでいく必要があります。そこで、「ひと・まち・自然が輝く三田」を計画期間内のまちの将来像(都市像)とします。</u></p>	
P 20	<p>3. <u>都市構造を踏まえた</u>土地利用 <現状> 三田市の<u>都市構造及び</u>土地利用における特性は次のとおりとなっています。 【全体】 ・市内では農村地域、既成市街地、ニュータウンなどさまざまな土地利用がなされています。 ・人口分布や都市機能の整備が市域の南西部に集中しており、市域の北東部は、自然環境に恵まれる一方で生活の利便性などが相対的に低くなっています。 ・<u>河川や森林は、北東部において良好な自然環境や生物多様性を維持する上で重要であるばかりではなく、南西部</u></p>	<p>3. 土地利用 <現状> 三田市の土地利用における特性は次のとおりとなっています。 【全体】 ・市内では農村地域、既成市街地、ニュータウンなどさまざまな土地利用がなされています。 ・人口分布や都市機能の整備が市域の南西部に集中しており、市域の北東部は、自然環境に恵まれる一方で生活の利便性などが相対的に低くなっています。</p>	<p>P 20 については、【全体】の2行目から3行目にかけての「市域の北東部は、自然環境に恵まれる一方で生活の利便性などが相対的に低くなっています」という表現と、【北東部】の3行目から4行目にかけての「南西部と各地区間を連絡するネットワークが形成されています」という表現が矛盾しているなど、下線部を付け加えたことでわかりにくくなってしまうので、下線部はすべて削除して元の文章に戻すべき。ただし、ただ単に元の文章に戻すだけでは【南西部】の言及が既成市街地やニュータウンだけになって</p>

項目	修正前	委員会修正案	修正理由
	<p><u>にとっても防災上も良好な都市環境を形成する上でも重要な役割を担っています。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>J R、神戸電鉄などの公共交通により大阪市や神戸市などの大都市と連絡しているとともに、中国自動車道、近畿自動車道敦賀線、六甲北有料道路などにより大阪市、神戸市をはじめ、中国方面や北陸方面などとも結ばれており、広域交通ネットワークの要衝となっています。</u> <p>【南西部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三田・三輪の既成市街地やニュータウンでは、土地区画整理事業や市街地再開発事業など街の魅力を高める都市機能の整備が進められています。<u>また、J R新三田駅、広野駅、相野駅の周辺では、地域の特性に応じた都市機能の整備が求められています。</u> ・ <u>今後も一定期間は三田駅周辺やニュータウンの一部では人口増加が見込まれますが、その後予想される人口減少等への対応を検討する必要があります。</u> ・ <u>地域経済の活性化のためにも、魅力ある企業立地環境であることが求められます。</u> ・ <u>居住機能や商業・業務機能などを有する市街地を中心に、ニュータウン、テクノパークや鉄道駅に連絡するネットワークが形成されてきました。</u> <p>【北東部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>人口減少等が進み、コミュニティや農地の維持等が難しくなりつつあります。市民の貴重な財産である自然環境を適正に保全しつつ、地域の活性化や農業振興に取り組むことが必要とな</u> 	<p>【南西部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三田・三輪の既成市街地やニュータウン、<u>市内J R各駅周辺</u>では、土地区画整理事業や市街地再開発事業など街の魅力を高める都市機能の整備が進められています。 <p>【北東部】</p>	<p>しまうが、広野地区も藍地区も南西部に含まれていることから「ニュータウン」の次に「J R各駅周辺」を挿入することによって南西部全地域をカバーできるようにするべき。</p>

項目	修正前	委員会修正案	修正理由												
	<p>っています。</p> <p><u>・自然に囲まれた農村地域における生活利便性の向上や災害時の代替性を確保するため、南西部と各地区間を連絡するネットワークが形成されています。</u></p> <p><u>・新たな人口定着が困難な農村地域は、少子・高齢社会を迎え、暮らしの安全や生活利便性の確保、コミュニティの維持などが難しくなっています。</u></p>	<p><u>・新たな人口定着が困難な農村地域は、少子・高齢社会を迎え、暮らしの安全や生活利便性の確保、コミュニティの維持などが難しくなっています。</u></p>													
P 21 ～ P 22	<p><土地利用の方向> 土地利用の目標及び現在の都市構造や土地利用の特性を踏まえて、次のとおり全地域、南西部及び北東部の土地利用の方向を定めます。</p> <table border="1" data-bbox="286 751 913 1233"> <tr> <td data-bbox="286 751 421 882">全地域</td> <td data-bbox="421 751 913 882"> <ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● <u>里地里山については、人と自然とが共生できる土地利用を進めます。</u> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 882 421 943">南西部</td> <td data-bbox="421 882 913 943">～修正なし～</td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 943 421 1233">北東部</td> <td data-bbox="421 943 913 1233"> <ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● <u>豊かな農地を適正に保全するとともに、里地里山を観光や交流など多様な目的で活用します。</u> ● 地域の活性化や住民の生活の維持を図れるような地域の実情に応じた土地利用を促します。 </td> </tr> </table>	全地域	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● <u>里地里山については、人と自然とが共生できる土地利用を進めます。</u> 	南西部	～修正なし～	北東部	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● <u>豊かな農地を適正に保全するとともに、里地里山を観光や交流など多様な目的で活用します。</u> ● 地域の活性化や住民の生活の維持を図れるような地域の実情に応じた土地利用を促します。 	<p><土地利用の方向> 土地利用の目標及び現在の土地利用の特性を踏まえて、次のとおり全地域、南西部及び北東部の土地利用の方向を定めます。</p> <table border="1" data-bbox="987 754 1630 1236"> <tr> <td data-bbox="987 754 1137 885">全地域</td> <td data-bbox="1137 754 1630 885"> <ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● 人と自然とが共生できる土地利用を進めます。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="987 885 1137 946">南西部</td> <td data-bbox="1137 885 1630 946">～修正なし～</td> </tr> <tr> <td data-bbox="987 946 1137 1236">北東部</td> <td data-bbox="1137 946 1630 1236"> <ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● 地域の活性化や住民の生活の向上を図れるような地域の実情に応じた土地利用を促します。 </td> </tr> </table>	全地域	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● 人と自然とが共生できる土地利用を進めます。 	南西部	～修正なし～	北東部	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● 地域の活性化や住民の生活の向上を図れるような地域の実情に応じた土地利用を促します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 21 の<土地利用の方向> 1 行目の「都市構造や」は、P 20 の都市構造について削除すべきとしたので、併せてここも削除すべき。 ・ 「里地里山」という表現について、自然と共生しつつエネルギーを利用するというわけでもなく、また実際問題として山林が荒れ果てているという現状がある中で、「観光や交流に活用」というのは無理があると思われる。よって、「里地里山」に関する表現は削除すべき。 ・ 北東部の住民は現状の生活に満足しているわけではない。さらなる向上を願っているので、P 2 2 の北東部の下から 2 行目の「生活の維持」は「生活の向上」に修正すべき。
全地域	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● <u>里地里山については、人と自然とが共生できる土地利用を進めます。</u> 														
南西部	～修正なし～														
北東部	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● <u>豊かな農地を適正に保全するとともに、里地里山を観光や交流など多様な目的で活用します。</u> ● 地域の活性化や住民の生活の維持を図れるような地域の実情に応じた土地利用を促します。 														
全地域	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● 人と自然とが共生できる土地利用を進めます。 														
南西部	～修正なし～														
北東部	<ul style="list-style-type: none"> ● ～修正なし～ ● 地域の活性化や住民の生活の向上を図れるような地域の実情に応じた土地利用を促します。 														